

海外経済

		2016年9月	2016年10月
世界経済		<p>世界の景気は、弱さがみられるものの、全体としては緩やかに回復している。</p> <p>先行きについては、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、アメリカの金融政策正常化の影響、中国を始めアジア新興国等の経済の先行き、英国のEU離脱問題に伴う先行き不透明感の高まりによる影響、金融資本市場の変動の影響等について留意する必要がある。</p>	(変更なし)
アメリカ		<p>アメリカでは、企業部門の一部に弱めの動きもみられるが、景気は回復が続いている。</p> <p>先行きについては、回復が続くと見込まれる。ただし、金融政策正常化の影響等に留意する必要がある。</p>	(変更なし)
アジア地域	中国	<p>中国では、景気は緩やかに減速している。</p> <p>先行きについては、各種政策効果もあり、安定的な成長は維持されるものと見込まれる。ただし、不動産価格や過剰債務問題を含む金融市場の動向等によっては、景気が下振れするリスクがある。</p>	<p>中国では、各種政策効果もあり、景気はこのところ持ち直しの動きがみられる。</p> <p>先行きについては、各種政策効果もあり、当面は持ち直しの動きが続くものと見込まれる。ただし、不動産価格や過剰債務問題を含む金融市場の動向等によっては、景気が下振れするリスクがある。</p>
	その他アジア	<p>韓国では、景気は持ち直しの動きが緩やかになっている。台湾では、景気は弱い動きとなっている。インドネシアでは、景気は内需を中心に持ち直しの動きがみられる。タイでは、景気は持ち直しの動きがみられる。インドでは、景気は内需を中心に緩やかに回復している。</p>	(変更なし)
ヨーロッパ地域	ユーロ圏	<p>ユーロ圏では、企業部門の一部に弱めの動きもみられるが、景気は緩やかに回復している。ドイツでは、企業部門の一部に弱めの動きもみられるが、景気は緩やかに回復している。先行きについては、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、失業率や物価の動向、地政学的リスクの影響、英国のEU離脱問題に伴う先行き不透明感の高まりによる影響等に留意する必要がある。</p>	(変更なし)
	英国	<p>英国では、景気は回復している。先行きについては、EU離脱問題に伴う不透明感の高まりによる影響から、回復が緩やかになることが見込まれる。また、その影響の拡大に留意する必要がある。</p>	(変更なし)